CG19枚+ノベル
コンビニ店員が
ア○にゃん似の娘を
輪姦した！

○田「おい、今日も来ているぞ」
○井「ああ、わかってる」
最近、オレたち2人の間で気になる娘がいる。
毎日、学校帰りにウチの店に寄って
音楽雑誌をひとしきり読んで帰っていく
小柄な女子○生、なぜ気になるかって？
け○おんの梓ちゃんに似ているからだ
しかも、部活は軽音部らしく
ギターを背負っているのが作品と一緒で
ますます梓ちゃんに似ているのだ
オレ達は2人とも梓ちゃんのファンだった
○井「見るたびに似ててかわいいんだよなあ」
○田「ホントだよなマジかわいい
やってみてぇ～っつ」
○井「あの幼児体型もいいんだよな
オッパイもお尻も小さい方が感度が
いいって言うしな」
Go!! Guitar
万引きは犯罪です

♪
Go!! Guitar
振り込み
オレオ
○田「そうそう、さぞかしマ○コも小ぶりでキツキツマ○コなんじゃね？」
○井「くぅ～そんな想像するとオレたまんねぇ～よ最近彼女と別れてからしばらくエッチしてねぇから溜まってんだよなぁ
○田「あ～あの娘とやりてぇ～なあ」
○井「・・・やっちまうか？」
○田「やるって・・・どうやって？」
○井「前に万引きした娘、見逃すかわりにエッチしたじゃん、あの方法で・・・どうよ？」
○井「・・・・よし、やっちまうか！かわいそうだけど、俺達に目ぇつけられたが最後だ、ゴメンネ（笑）」

○田「困るんだよなぁ
商品万引きされちゃあ」
梓「私、盗ってません
何かの間違い・・です」
彼女から取り上げた生徒手帳を
見てみる。
中谷梓、第一学年　組
へぇ、マジで同じ梓って名前なんだ
俺達の事が怖いのだろう、
梓は肩をこわばらせて小刻みに震えている
それを尻目に語気を荒げて言う
○井「なに言ってんだ、アンタも見ただろう？
バックから商品出てきた所を！
それで『盗ってません』って言われてもなぁ」
そう、さっき彼女が雑誌を読んでいる時に
○田が後ろからこっそり商品を入れて
おいたのだ
言われて梓は身を守るように胸に当てた
両腕をより固く閉じた。
と、盗ってません

締めて両腕から、ほんのりわかるふくらみと
ムッチリした太ももを視姦しながら
これから、レイプするかと思うと
コカンがビンビンに
熱く硬くなってくるのがわかる
と、盗ってません
○井「他にも何か隠してんじゃないの
とりあえず、身体検査だな」
梓「え 身体・・・？
いやで・・・す、本当に何も盗ってません」
震えながら小声で、だが懸命に訴えてきた。
○井「まあ、初犯だからケー○ツとか学校
親には連絡しないで身体検査だけで
大目に見てやるって言ってんだよ、
自分の立場わかってる？」
梓「そ・そんな・・・っ」
梓は絶望に愕然と身を震わせる

あっ！
梓「きゃああ！」
○井が思いきり、シャツを乱暴に拡げ、小さなブラジャーを力まかせに剥ぎ取った。
小振りながら柔からそうな乳房ピンク色の乳首が反動でプルルンとゆれた
○井「じゃあやっぱりケー○ツや親を呼ぼうかあ？人が穏便に済まそうと思ってるのによ！」
すかさず胸を隠しながら、大きな両目に涙をたたえて、梓は訴える
梓「本当に・・・やってません・・・っ」
○田「最近の娘は証拠が見つかってもゴメンなさいも言えないのかぁ？」
「ま、とりあえずブラの中にはなにもねえな」
じゃあ次はスカートの中を」
梓は慌てて震える手でスカートを押さえる
梓「スカートの中はなにもありません」
○田「ちっ検査だっていってるだろうが！」
梓「イヤァッ！」

やっやぁ…っ
ムニュッ
ムニュッ
強引にスカートをたくしあげ
手で両脚を無理矢理拡げる
梓「いやああ！」
股浅めのかわいらしい縞パンが
あらわれた
○田「おおお
布がくっきりタテスジに食い込んでるよ
スッゲェ」
梓「やぁ・・っ恥ずかし・・っ見ないでぇ・・・」
○井「見なけりゃ身体検査にならないだろ
ホラ隠そうとすんな、手ぇどけろ
○田！手を押さえろよっ」
○田「おう」
もがく梓の両腕を
力まかせに持ち上げる
胸も下着も露になり
梓は耳まで紅潮し
今にも泣きそうだ。
○井が指でタテスジをなぞると
ビクッ！
と梓は身を震わせた
○井「へぇー 梓ちゃん、けっこう反応いいね」
○田「おおっ！柔かいオッパイしてるよ」
怯んだ隙に○田はオッパイを乱暴に揉みしだく
梓「いたっっ！痛い！」
○井「オッパイにもパンツにも、なにも隠して
ないなぁ」
梓「だから、なにも隠してないって・・・」
○井「ふ～む、わかった・・・・
じゃ、次はいよいよマ○コ
拝見といくか～」
梓「え！」

いやぁ
2人「おおおおー
出たああ！少女の
梓ちゃんのちっさいマ〇コ
丸見えーっ！」
梓「いやあ、見ないで、見ないで」
〇井「マ〇毛生やしちゃって！
産毛みたいでフワフワだな。
しかも綺麗なタテスジ
クリも顔を出してないし！
もしかして処女マ〇コだぁ」
ガ
ガ
ツ
梓「イヤー
見ないでえええぇ」
梓は身じろぎながら泣き叫んだ
〇井「ダメだ、女はマ〇コの中に
隠せるからな」
〇井は力ずくで
パンツを剥ぎ取った
梓「きゃあああああ」
目の前に少女の柔らかそうな
ピンク色のマ〇コが！
2人「おおおおー

○井「こんな小さいマ○コでオレのチン○入るのかなあ」
と言いつつ、指でクリトリスを強く突く、その瞬間
梓「ああっ！」
梓の体が激しく反応した
○田「あーもうだめだめ」
後ろで押さえていた○田は思わずズボンのファスナーをおろし
○田「オレ、もう我慢できねーよ！」
あっ
や…
クニュ…
見られてる恥ずかしさと恐怖で声を出せず、震えてる梓・・・・
○田は、それを見ながらニヤニヤと指でワレメを拡げ
○井「おお、膜があるしきれいな処女マ○コだぜ尻の穴も綺麗な形してるなぁ」
指でひとつひとつを突っつく度にビクビクッと反応するかわいい・・・

熱く勃起し大きくなった
チ○コを梓の目の前に
突き出す

梓　「キャァーーーッ」
初めて見る男性器に
梓は目を見開き
驚きの声をあげた

○田「見るのはじめてか」

梓　「・・・・・」

○田「よく見ておくんだな
これがお前のマ○コの中に
入るんだからな」

ブルンッ

ひ・・っ

ぐいっと梓の髪を掴み
無理矢理
顔を上げさせ

○田「ほら、チン○を舐めろよ
フェラをするんだ」

梓　「いっいやぁ・・・」

○田「ククク・・こんなかわいい娘の口に
オレのチン○くわえさせる
なんてたまらねえよなあ」

恐怖でひきつってる口に
チン○を押し当て
むりやり口の中へ押し込んでいく
力の強さで少しずつ
唇が開いていく

梓　「あっ・・・・うぐぐぐっ」

梓　最後は強引に押し込んだ。

「ウグーーッッ!」

きつくイマラチオをされ苦しむ梓
○田「よく味わえよ
これがチン○の味だぞ」
○井「おいおい
せっかくクリとかマ○コとか
舐めようとしたのに
フェラさせやがって」
○井はしかたなく後ろから
小さなオッパイを揉みしだく
○井「おおっ柔かいぞ」
梓「うっげうっっ」
○田「ほら、口で激しく
ピストンするんだよ
もっと深くくわえるんだ」
○井「おいおい
そんなにのどの奥まで
激しく突っ込んだら
かわいそうだろ、イマラチオは
まだ無理だぜ」
○田「バーカ
かわいい娘の苦しげな表情が
たまらねぇんじゃねーか
それを楽しむんだよ」
○井「わー、お前悪人、非道、鬼畜ぅ」
○田「くーっ口が小さいから、マ○コの中で
ピストンしてるみたいだ、だから口マ○コ
いうんだなあ」
ジュプ
ジュプ
ジュプ
ジュプ
ぐうっ
ぶーえう
言ってる内にチン○が口腔の中で
ビクビクと激しく脈打つ
○田「うお・・・たまんねえぇ・・・っ
よーし口の中に一回射精しておくか」
梓「うっうぐぐぐ・・・っ」
○田は、梓の頭を押さえ腰を激しくピストン
しだす。
○田「お・・・っあ・・・っも、もうっっ!」

○田「うおおおーっ」
○田の絶叫と共に
口の中で大量の精液が放出された。
はじめての経験で
びっくりした梓は後ろへのけぞる。
その拍子に口から外れたチン○から
大量の精液が梓の顔へと放たれる。
ビュッドピュッドピュッドピュ！
梓
「キャアアアア！何っ・・・・！
・・・ゲホッゲホッ」
○田「バカ！途中ではなすんじゃねー」
よほど溜まっていたのか
何度もチン○が痙攣
する度に大量で濃厚な精液が
梓の可愛い顔を汚していく
きゃあぁ
ビュルルル!!
ビュッ!!

ゲイッ
やぁ…ッ
ダメッ
ゲッ
○井がたまらず
○井「ちくしょう、そんなの見せられたら
オレも、もう我慢できないぜ」
と、梓を乱暴に押し倒し
無理矢理拡げた股間へと
勃起したチン○を押し付ける
梓「いやーっやめてーヤダヤダ
入れないでぇっ！」
○井「うるせえなあ、もう限界だっての！」
梓「ダメダメお願い許して、やめてぇっ」
グッと入口に差し込もうとするが
キツい上に梓が暴れるので入らない
梓「痛い痛い！裂けちゃうっつ！」
武井「当たり前だ、最初は痛いんだよ！動くな
ほら、○田今度はお前が押さえろよ」
○田「はいはい」
○田は梓の体を後ろから
押さえ込んだ
○井「俺が女にしてやるよ、へへっ」
身動きがとれなくなり喚く梓
をよそにグッと挿れこむ。
○井「いくぞオレがお前の初めての男だ！」
梓「いやぁーーーっつ！」

痛っ

痛いっ

ズブブブ・・・

メリ

メリ・・・

ズブズブ・・・
ゆっくりと挿入していく
梓が破瓜の痛みに顔をゆがめる。
構わず力ずくでいきり立った
ソレを押し込んでいく

梓「あっあああ・・・」

梓「痛い痛いっもうやめて
お願い裂けちゃう・・っぐぐ!」

○田「ほら、オッパイ揉んでやるよ
すこしは苦痛が
やわらぐんじゃねーの」

梓「やっそっそんなにきつく
揉まないでっ
グリグリしないで
あああああっつ」

○井「マ○コから血が出てきたあっ
処女マ○コ最高っ
やっぱ初物だぜ!」

○井は力まかせに一突きした
梓のせまい膣口を突破して
いっきに子宮口奥まで突き刺す

梓「ぎゃあああああっつ・・・」

梓の悲鳴が響く・・・

ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
だめだめ中に出さないでーーっ
○井「うおおおーーっ さすが処女！締まりがきつい 痛いくらいだぜ」
梓「ああっ痛い痛い そんなに激しく動かないで アソコが裂けちゃうよぉっ」
○井「うおお、すっげえ快感 チ○ポこすれるたびに 前立腺の刺激がああっ こっこれじゃあ、すぐイっちまうぜ このまま、マ○コの中に たっぷり溜まった一週間分の 精液出してやるからな」
梓の顔がさらに青ざめた
梓「え・・・精液って・・ ああっダメダメ絶対中に出さないでっ」
○井「なんだ今日は危ない日かあ そりゃあいいや、 よーし膣出し決定 処女で一発妊娠、孕ましてやるぜぇーーっ」
梓「いやあああ やめて、やめぇぇお願い・・・・ お願いですっつ！」
○田「ははは思いっきり中出しちまえよ」
○井「よーし子宮の奥へ濃厚精液 いっぱい出してやるから かってに孕めよ、いくぞっつ！」
フィニッシュを向かえるべく 腰を激しく打ちつけ 絶頂へと突き進む
○井「うおおおーーーっつ！」
ドピュドピュドピュ！ 子宮の奥深くに たっぷり溜まった精液をはき出す

梓 「いやあああああーーっ」
長い射精が終わり
チン○をズルッとマ○コから抜く
その瞬間大量の精子が
ゴポゴポとあふれ出て来た
ああああ
ゴポォ…
ドプドプッ
○田「うわあ、ま○こからいっぱい出てきたあ
おまえ出しすぎじゃん
マジこいつ孕むぞ」
○井「ははははは、自分でもちょっと驚き（笑）」
○田は床に倒れている梓の尻をつかんで
○田「おいおいこれで終わりじゃねーぞ
こんどはオレがハメる番だからな」
梓 「も、もうやめて・・・
痛いんです、あそこが・・
それに、本当に赤ちゃん
出来ちゃう・・・」
その言葉をよそに○田は
梓の腰に腕をまわし、持ち上げ
四つん這いにさせると
バックからハメようとする。
○田「だから孕ますために挿入れるんだよ
それに中に一発出したら
2発も3発も一緒だよ」
梓 「イヤーーーッッ」

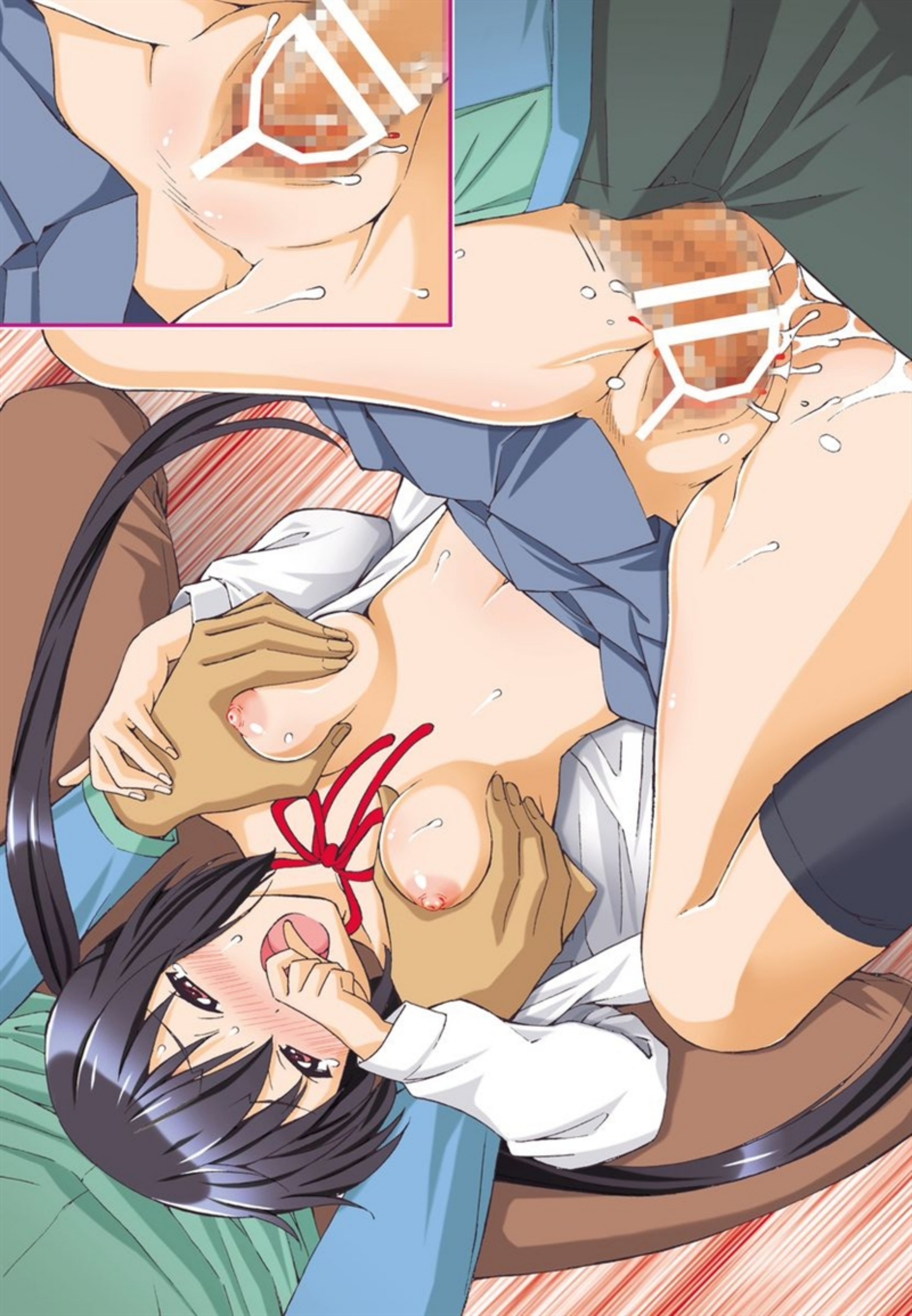
ズブブブ
逃げる梓の尻をがっちりつかんで
一気にきにちん○をマ○コに突きさした
梓
「ひっいっつーーーー」
梓の体がのけぞる
○田「うおおおお
本当だぁ処女マ○コ
しまりがパネェ
こりぁ気持ちいいぜ」
○井のS○Xを見てコーフン
しているのか、激しく梓のマ○コに
腰を激しく打ちつける
梓
「痛い！痛い痛い
もうやめてぇーっ」
○井「はいはい
喋ってるヒマなんかないぜ
その口でオレのチン○
きれいにしてくれよなぁ」
○井は梓の口に
精液まみれのチン○を
ねじこむ
○井「ほら、泣いてないで
深くしっかりくわえるんだよ」
梓
「あっ！あがっむぐぐぐっ」
前と後ろ、同時に
激しく責められ
梓はヒイヒイと泣き叫ぶ
!!
ズブ
ズブ
ズブ
ズブブブ

ズッ
ウゲェ
ズブッ
ズブッ
ズリュッ
ズブ
ズッ
○田「ははっこりぁ気持ちいいぜっつ！」
だんだんピストンも早くなり
射精が近くなってきた
○田「うおおおーよーーし
俺もたっぷり中出ししてやるからな！」
梓「うぶっダメダメもうイヤァァーーッ」
○田「あっイクッイクぞぁーっ」
梓「うっちゅぶ・・あっつ
ダッ・・メッ本当に・・うぐぐ
中に出さないでーっ」
○田「ちっ、せっかくイキそうだったのに
うっせーな
じゃあ中出しはやめてやるよ」
○井「お？優しいなお前は」
○田「フン、そのかわり
尻の穴に入れて射精して
やるよ、くく」
梓「えっ！」
おどろく梓
チン○をマ○コから抜いて
アナルにあてがう
梓「お尻なんて・・・！
そんなとこやめてぇ」
○田「マ○コは嫌なんだろ
だまって我慢しろ！」

ズブ
ズブ
ズブ
ズブ
ズブ
ズブ
ズブッ
ぁぁぁぁ
○田「尻の穴入りやすく痛くねーように
精子たっぷり尻の穴に
塗りこんで・・・っと
いくぞーーーっ」
キツイ反発の後
グググーーーっと一気に貫いた
梓「んっ・・・いぎぎいいいい」
梓は目を見開き
痛みで身体を痙攣させた
○田「うおおおっ処女マ○コの穴も
きつかったけど尻の穴は
締まりもっとハンパないぜ！」
○井「ほら、こっちも
もっとのどの奥までフェラしろ」
より一層、激しく前後から
突かれる梓
○田「やべえ、もう出そうだ
でも妊娠の心配もねえ
思いっきり腸の中に中出しだっ！
うおおーーー」
○井「オレもだ！イクぞーーーっ」
フィニッシュに向けて激しいピストン
2人同時に絶頂へ突き進む

2人「うおおおおーーーっっ」
前から口の奥へ
後ろから腸の中へ
大量射精された
ドクドクドク
ドクドク・・・・・！
梓「オオッウヴヴッウググ」
2つの穴から
注がれる精子に
嗚咽する梓を無視し
長時間、射精が
終わるまで
突き続ける・・・・
ドプッ
ドクッ
ドピュ
ドピュ
ドピュ
ドピュ
ああああああ

アナルからチン○を抜くと
大量の精液が
ゴポゴポと流れ出た
マ○コからの精液と入り混じり
ドロドロと流れ落ちる・・・・
梓
「ウ・・ゲホッ
ああ・・・
赤ちゃん・・・出来ちゃう・・」
○井「ま、これにこりて
もう二度と万引きはするなよ」
口ふうじのため携帯で
写真を撮る
その時だった
事務所のドアが開き
2人の男が入ってきた
ああああ・・
ドロ・・
ドロ・・
ゴポゴポ・・
○井「店長！」
○田「チーフ！」
○井と○田が驚いて声をあげた。
店長「おい！お前達
なにやってんだ」
その声に梓も顔を上げ
声を絞り出して叫ぶ
梓
「た・・・助けて下さい・・」
梓の表情に安堵の表情が浮かぶ
これでレイプから
解放されるんだ・・・

梓
「いやあああ」
店長
「やっぱり若い娘のマ○コは
締まりがよくて最高だな」
チーフ「フェラも
たまりませんわ」
そこには・・・
店長、チーフも加わり3つの穴を
責め続かれる梓がいた・・・
店長
「しかし・・・・
お前達もいいかげんに
しとけよ
可愛い娘と見ると
ワザと万引き犯に
でっちあげてレイプする
のはよ」
○井
「わ、わかってますよ店長！」
チーフ「まぁおかげで
オレたちもいい目を
見させてもらってるけどな
ははははは」
○井
「しっ！聞こえますよ」
ズブ
ズブブ
ズブ
ズブブ
ズブブ
ズリュ
ズッ
ズブ
ズブ
んぁあぁ
店長
「うおっ
そろそろ射精そうだ・・・っ
お嬢ちゃん、子宮の奥にたっぷり
中出しするからな！
ほら、飲み干せ！」
そう叫ぶと店長は
梓の膣に大量の精液を
注ぎ込んだ
チーフ「うおおっオレも
そろそろ射精るぞ！
ほらっ
残さずしっかり飲むんだぞ」
と叫びチーフも
梓の喉奥に注ぎ込む
○井
「初めてがレイプで、
その後
4P3穴いれられて
その上妊娠なんて
かわいそうな娘だなぁ
くくく」
梓
「う・・・ああ・・やぁ・・」
宴は続く・・・・

Go!! Guitar
万引きは
犯罪です